

「魅力ある学校づくり」の推進



令和7年度版リーフレットでは「魅力ある学校づくり」の推進について提案しました。それを受け、地区内の全学校では、児童生徒の声を捉えるために、厳選した四つの質問項目で意識調査を実施してきました。この中には、学習状況の把握や授業改善につながる項目が二つあります。

ウ「授業に主体的に取り組んでいる」

エ「授業がよくわかる」

どの児童生徒も「楽しく学びたい」「よくわかりたい」と願っており、どの先生方も「主体的に学ぶ授業をつくりたい」「わかる授業にしたい」と授業づくりに取り組んでいます。

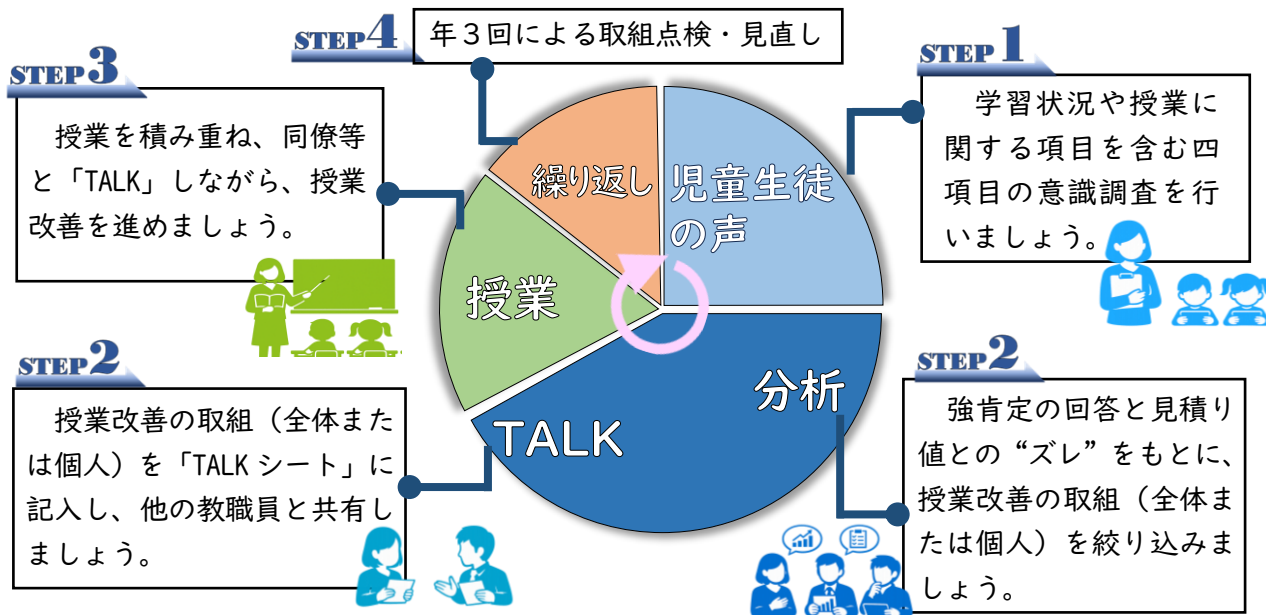
この願いや思いを形にし、児童生徒の充実した学校生活の実現を進める学校に向け、令和8年度リーフレット『魅力ある学校づくり』の推進 (Ver.2) では「魅力ある学校づくり」に向けた授業改善の取組を提案します。

この取組により児童生徒を主語にした安心や居場所がある授業が実現され、確かな学力の定着が図られることが期待されます。

令和7年度版リーフレットはコチラから⇒



授業改善を進めていくためには、「魅力ある学校づくり」に向けた四つの STEP (令和7年度版リーフレット参照) に合わせた次のサイクルを回していくことが大切です。



各過程については、次のように進めていきます。

STEP 1



「まずは右の二次元コードから意識調査を始めましょ」



【入力用Form】複製して使用してください。

意識調査を実施ましょ。質問項目のウやエに着目して「魅力ある学校づくり」を進める場合、「〇〇な授業にしていきたい」といった授業改善に向けた取組を推進していくことになりましょ。

【意識調査】				
現在の学校生活について、あなたはどのように感じてましょか。当てはまるものを右の1から4の中から選び、その番号に〇を付けてください。				
	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
ア 学校が楽しい	1	2	3	4
イ みんなで何かをするのは楽しい	1	2	3	4
ウ 授業に主体的に取り組んでいる	1	2	3	4
エ 授業がよくわかる	1	2	3	4

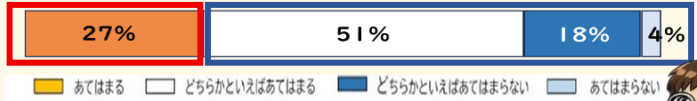


STEP 2



「着眼点が変われば 児童生徒の見え方が変わる」

【例】エ 授業がよくわかる



例えば、「エ 授業がよくわかる」の結果が、右のようになった場合、みなさんは赤枠と青枠のどちらに着目するでしょうか。

「魅力ある学校づくり」では、まず、赤枠の強肯定「当てはまる」の27%に着目します。そして、赤枠の強肯定を増やすために何をすべきかと検討することで青枠にも着目することになり、結果、全ての児童生徒のための分析がはじまります。そして、強肯定を増やすために、職員の見積り値とズレがあったのはどうしてか、今後何をすべきかなど、授業改善の取組について検討し、次の視点で取組を絞り込みましょう。

【授業改善の取組を絞り込む際の視点】

- 取組は「目指す児童生徒像」へ向かう取組になっているか
- 「生徒指導の四つの視点」を踏まえているか

取組が決まれば、その取組によって強肯定がこれくらいになるだろうといった見積り値を決めて、日々の授業改善の取組を進めましょう。

地区内の指導主事のみならず、地区に必要な授業改善の取組について話し合いました。その取組例の一覧はコチラから⇒



STEP 2



「『TALK』が授業実践の深まりと継続につながる」

「分析」で決めた授業改善の取組を、「TALK」シートを通して他の教職員等と共有し、一緒に授業の具体化を図ったり、授業参観後に児童生徒の学びの様子を語ったりしながらみんなで改善に取り組みましょう。

- 「TALK」シートを用いて語ることで、次のことが期待されます。
- 取組の意識化と価値付け
 - 潜在的な考えや自身の強み・課題などの気づきへの促し
 - 指導観などの「観」の交流や同僚との結び付きの深まり
 - 「TALK」シートに基づいた管理職からのアドバイス

「TALK」シートの使い方と枠のサンプルはコチラから↓

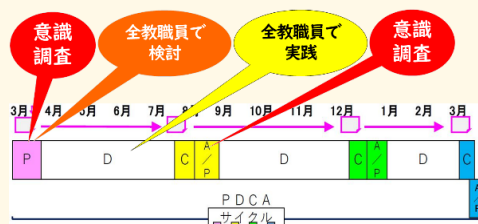
STEP 3



同僚等と「TALK」しながら、目指す児童生徒像に向けて、授業改善を積み重ねましょう。そして、次の意識調査に向かいましょう。

STEP 4

年間3回のサイクルを回して授業改善、更には魅力ある学校づくりを推進しましょう。



【目指す児童生徒像の設定】



【よろず相談 (メール)】

STEP 1 へ進む